

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2799500125		
法人名	社会福祉法人ブロードハーモニー		
事業所名	グループホーム 第2ふれ愛四季の郷		
所在地	大阪府阪南市下出373番地		
自己評価作成日	平成30年6月11日	評価結果市町村受理日	平成30年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域、環境で尊厳のある日常生活と、安心で心地良い生活空間を提供できるよう努めています。過去の職歴、生活歴をお聞きし、出来る事、出来ない事を把握して、職員間で共有し合い出来る事の継続、支援して出来る事を一つでも増やしていけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型施設としての意義を踏まえ、地域との付き合いを大切に考え、実践している取り組みは評価できる。建物内にある地域交流室を、地域のお稽古教室や子供会に提供したり、交流している小学校の生徒に落語を披露する場所として提供したり、ボランティアの訪問時等に使用したりしている。また、建物前の広い駐車場では夏祭りを開催し地域の婦人会、青年団などの協力を得て盆踊りを行い、入所者と地域の人たちが一緒に楽しむ取り組みをするなど、事業所が地域の一員として積極的に関わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿いつつ、目標を作りユニットに掲示してユニット会議時には全員で唱和しています。	「安心、信頼、笑顔で社会福祉に貢献します」という法人理念を事業所内各所に掲示している。ユニットごとに今年度の目標を皆で考え、事業所の理念として、ユニットに掲示してあるが、開設後日が浅いこともあり、継続して共有化に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域町内子供会との交流を持ち、段ボール等の廃品回収に協力しています。定期的に子供会さんより、落語会等のイベントを開催して頂いています。	開設1年の事業所ではあるが、地域との交流を重視し、積極的に実践されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、定期的にボランティアさんを取り入れてはませんが、習字教室から順にお願いする予定にしております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第2水曜日に開催しております。家族様の参加を全般に参加頂けるよう声掛けをさせて頂いています。	同建物内の地域密着型特養と合同で開催されている。参加者は市介護保険課、地域包括、ボランティア(知見者)利用者家族と事業所職員で町会や民生委員などの地域代表は出ていない。意見交換は活発で議事録はわかりやすい。家族には議事録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、お二人来所して頂き、それぞれのユニット3名様ぐらいお話をさせて頂いています。報告書も頂き、今後の介助等の話も職員同士行っています。	市職員が運営推進会議に2名参加しているので事業所の内容はよく把握されている。困難な事例は市介護保険課に相談してアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベータの施錠はしていません。館内、駐車場、散歩等スタッフと一緒に散策されています。	建物の前は交通量の多い通りで、帰宅希望の強いケースもあるため、出入り口はオートロック対応としている。法人で身体拘束ゼロ推進委員会が組織され事業所からも代表が参加し内容を伝達している。現在身体拘束事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、ミーティング等で講習を受けており、言葉使いについて職員間で注意・指導をお互いに行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学習しています。後見人については、家族様と話す機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前には必ず説明をさせて頂き、了解を得た上で署名、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来所時には、職員を含めての気の付いたことは無いのか。ご意見を伺っています。	家族の来訪は多いので、その時に要望希望を聞く機会としている。家族から記録ファイルの名前についての要望があり、検討した例があった。家族へは毎月1回行事の写真入りの通信を送っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で職員の意見を聞いています。個人面談時にも意見を聞いています。	ユニット会議はケースカンファレンスで、運営に関する提案は個人的に上がってくるので管理者がその都度対応している。	現場職員からの意見や情報をしっかりと取り入れ運営に活かしていくことは大切なことである。働く意欲の向上や質の確保にもつながる定期的な職員会議の開催を望む。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業シフトで翌月の休み希望を3日取り入れたり、時に応じて休みの変更もしております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強への出席を促し、勤務で出れない時は、レポート提出で勉強をする機会をもっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括主催の勉強会へ参加し、他事業所様との交流を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に必ず担当者会議を開催。家族様が本人様の困っている事や要望をお聞きし、全スタッフへ周知しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた際、声掛けをさせて頂き、要望等お聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的に利用者様と面談し要望等お聞きしています。入居1ヶ月目は必ず面談を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族様が面会に来られた時は、できるだけスタッフも参加させてもらい、一緒にお話を聞く機会を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同生活をしている意識を常に持ってもらい声掛けをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様へは、外食、外泊をできる範囲でお声掛けを行い、協力して頂いています。	入所前の自宅訪問や家族、本人からの聞き取りで馴染みのこれまでの生活を知るように努めている。集団で近くの桜や紫陽花の名所に行くことがあるが、個々の支援は家族にお願いしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同室での席の配置を配慮したり、スタッフが入りお互いの話を橋渡ししております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調等回復時には、必ず声を掛けていただくようお願いしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の様子を観察し、変化等があればスタッフを交え話し合い、改善の方向へ努めています。	意思の疎通ができる方が多いので普段の会話や様子、家族の話も参考にして、その人の思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様より、生活歴をお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々は、ユニットのヘルパー、看護師が観察し月2回主治医の往診で体調管理しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のご自宅で暮らす事が出来る事を想定し、計画を立案しています。	管理者は計画作成者として、利用者が施設を自宅と思って暮らせることを想定して、介護計画書を作成している。スタッフは月1回フロアごとにケアカンファレンスの場を持ち、その意見や各種記録を参考に計画作成者がモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニットにてその日の様子を介護記録に残しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人その人に必要性があれば、リハビリ、マッサージの先生に協力頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まずは、書道教室から順次始めていきたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週木曜日は主治医往診、毎金曜日は歯科医往診。受診が困難な利用者様へは月1回精神科医の往診。それ以外は、基本は家族様で受診して頂くが、場合によっては施設で送迎し受診しています。看護師よりサマリーは用意しています。	入所時に事業所の医療システムを説明し納得をえたうえで全員往診の医師に受診している。看護師は往診時には立ち合い、医師と家族、事業所の連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携しながら指示等も頂き、また主治医に連絡を取ってもらい、指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要な情報は提供しています。入院中は家族様との連絡も密に行い退院に向けての環境を整える支援も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合の意向を伺い書面にて同意書を頂いています。	入居前に延命治療や看取りについて説明し希望を確認し書面に残している。今のところそのようなケースはないが、家族が泊まれる看取り室まで用意してあり対応する体制ができている。医療機関が母体でありバックアップは心強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様一人一人、急変時のファイルを用意しています。全スタッフに周知しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いの元、年2回おこなっています。夜間想定、利用者様の搬送の流れ等訓練しています。	今年3月に1回目の避難訓練を実施し、8月に2回目を予定している。近所には、警報装置があることを伝えている。備蓄としては水のほかに各ユニットに市販の非常袋を置いている。そのほかの取り組みはこれからである。	火災・水害・地震の全ての災害に対する防災対策マニュアルを策定し、職員に周知し、地域との協力体制を早急に構築することを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切にしてスタッフ間で注意を仕合い適切に対応するよう心掛けています。	接遇研修は年1回以上行われており、職員は適切な言葉遣い、対応をしている。職員間で注意しあう関係もできている。フロアデスクの上にファイルが置かれてあった。	職員全員が個人情報の重要性を理解し、管理を徹底できることを期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞き取りにくい利用者様であっても時間を掛け、傾聴しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様優先で、スタッフ都合を無くし対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪は、出張理容が随時来て頂いています。洋服についてもシーズンに合った物をお着換えしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	しっかりと時間を掛け、味わってもらっています。食卓を拭いてもらったり、下膳をお手伝いしてもらっています。	昼、夕食は建物1階厨房で調理され、各ユニットで盛り付け配膳している。朝食とご飯と汁は各ユニットで用意している。給食委員会に事業所からも参加している。週1回のおやつづくりを大切に、たこ焼き、どら焼きなどを楽しんでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を考えてもらっています。利用者様の好みも聞き個別に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフ見守りの元口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、声掛けにて失禁を減らすよう努めています。	排泄の自立度は高く半数が布パンツを着用している。プライバシーを考慮しトイレを除き窓からそっと確認している。現状の能力を維持しトイレでの排泄が長く続くように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指示、協働にて個々の表を作りスムーズに排泄できるようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回確保しています。当日の体調を考慮しスタッフ一部介助にて入浴して頂いています。利用者様のペースで入浴して頂くようにしています。	一般的な浴槽とリフト浴があり、ほとんどの人は一般浴を利用している。浴槽は3方があいて介助しやすい作りである。浴室は広くゆったり入浴ができる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身のペースで生活して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が個々の服薬ファイルを作成して頂いているので、薬情を確認また、服薬時の個数等二重でチェックしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ、ゴミ出し、買物、フローアーマップ掛け等のお手伝いをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1度程度、運転手、助手でドライブに出かけています。シーズンに応じ、花見等も見物に出かけています。地元町会の好意により秋祭り「地車」が施設の駐車場まで来て頂き、利用者様へ披露してもらっています。	事業所は海にも山にも近く行楽には恵まれた環境にある。建物内テラスや広い駐車場も外気浴に利用できる。さらに今後もっと外出支援に力を入れていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買物に行った際は、レジにて支払いをして頂いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話のスカイプを利用して家族様とテレビ電話を楽しんでいる利用者様もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日のホール掃除はもちろん、塗り絵、折り紙そ作品を壁に展示しております。居室のそれぞれのテレビの音量にも配慮し心地良く生活できるよう努めています。	新築1年でどこも新しく広々した空間で気持ちが良い。フロアの隅に2、3人掛けの椅子が置いてありおしゃべりが出来ている。展示品や飾り物で季節感をだそうと努力されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のペースに合わせ、ご自由に過ごして頂いています。気の合う同士でスタッフ同行の元、施設の周りを散策しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族様へ今までご自宅で使慣れた家財道具を持って来て頂くよう声掛けさせて頂いています。お部屋のレイアウトも本人様、家族様で行っています。	個室にはベット、空調、照明、カーテン、洗面台、が備え付けられている。あとは個々に必要なものが持ち込まれその人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル着席時は、可能な限り椅子へ座って頂いています。トイレ、居室も本人様が分かるよう配慮しています。		